

気象状況に潜む危険を読む

雨天時

■雨天時の危険性

○視界が悪くなる

雨天時は視界が悪くなり危険の発生が遅れます、特に、サイドミラーが水滴のため見えにくくなります、また、前車の水しぶきや追い越していく車両の水しぶきなどで、一瞬視界が遮られる事もあります。

○路面が滑りやすい

雨天時は路面が濡れているため、停止距離が長くなるとともに、スリップの危険性も大きくなります、特に、雨の降り始めからしばらくの間が、最もスリップしやすくなります、これは、雨が降ると舗装道路の表面の土ぼこりがオイル状になり、ちょうど路面に油をひいたような状態になるからです。



■事故防止のポイント

○雨が降り始めたら、スピードを落とす

雨が降り始めたらスピードを落とし、前車との車間距離を長くするようにする、高速道路で、速度規制が出された時は、必ずその速度を守り、また、急なハンドル操作やブレーキ操作はスリップの原因となりますから、しないようにしましょう。

○進路変更はしない

水滴によってサイドミラーが見えにくいいため、後方の二輪車などを見落としやすくなりますから、前方が工事中などのやむを得ない場合以外は、進路変更はしないようにしましょう。



強風時

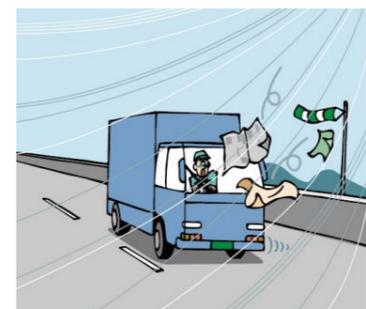
■強風時の危険性

○ハンドルをとられる

強風時は、車が流され、ハンドルをとられやすくなります、しかし、強風で車が流されて事故になるというケースは少なく、むしろ、強風にハンドルをとられたために、あわててハンドルを切り返したり、急ブレーキを踏むために、事故になるケースが大半です。

○飛来物が視界を遮ることがある

強風下では、路面の紙くずその他が舞い上がり、一瞬ドライバーの視界を遮ることがあります、また、紙くずがフロントガラスにはりついて視界を遮ることもあります。



■事故防止のポイント

○ハンドルをしっかり握る

強風時は、ハンドルをとられやすいので、スピードを落とすとともにハンドルをしっかり握って走行し、特に、橋の上・トンネルの出口・切り通しなどは強風の吹きやすいところですから、ハンドルをしっかり握りましょう。

○強風にハンドルをとられたとき

強風にハンドルを取られたときは、あわててハンドルを切ったりせずに、まずアクセルから足を離してスピードを落としてから、小刻みにハンドルを操作して態勢を立て直すようにしましょう。

